

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																
専門学校岡山ビジネスカレッジ		昭和58年3月3日	西崎 誠	〒 700-0825 (住所) 岡山県岡山市北区田町1-1-9 (電話) 086-230-0350																
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人貝畑学園		昭和58年3月3日	貝畑 雅二	〒 700-0825 (住所) 岡山県岡山市北区田町1-1-9 (電話) 086-230-0250																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度															
商業実務	商業実務専門課程	ファッション学科	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度															
学科の目的	アパレル業界に就職する為の専門知識や専門技術を幅広く学習し、ニーズに対応できる提案力や商品を作り上げる技術力を実践的に習得することでアパレル業界に必要とされる人材の育成を行う。																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格(色彩活用パーソナルカラー検定、ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、パターンメイキング技術検定) 退学者 7名(退学率 10.1%) コンテスト入賞等の実績(技能五輪全国大会 金賞、銀賞、銅賞、敢闘賞)																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技													
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 1,800 単位数時間 単位	495 単位数時間 単位	945 単位数時間 単位	1,050 単位数時間 単位	0 単位数時間 単位	0 単位数時間 単位													
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)																	
80人	58人	0人	0%																	
就職等の状況	■卒業生数(C)		32	人																
	■就職希望者数(D)		29	人																
	■就職者数(E)		29	人																
	■地元就職者数(F)		23	人																
	■就職率(E/D)		100	%																
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		79	%																
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		91	%																
	■進学者数		2	人																
	■その他																			
	(令和4年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																			
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) アパレル企画・製造業界(主な就職先 カイタックグループ、明石被服興業株式会社、CUP株式会社、WHOVAL) アパレルショップ業界(主な就職先、DIESEL、JUN、株式会社ファイブフォックス)																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無																	
当該学科のホームページURL	URL: https://www.obcnet.ac.jp/course/f_design/																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)		<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>480 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>420 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>480 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>420 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table>				総授業時数	480 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間	うち必修授業時数	480 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間
	総授業時数	480 単位時間																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間																			
うち必修授業時数	480 単位時間																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																			
(B: 単位数による算定)		<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>				総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位	
総授業時数	単位																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																			
うち必修授業時数	単位																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人																	
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人																	
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人																	
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人																	
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人																	
	計		3人																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

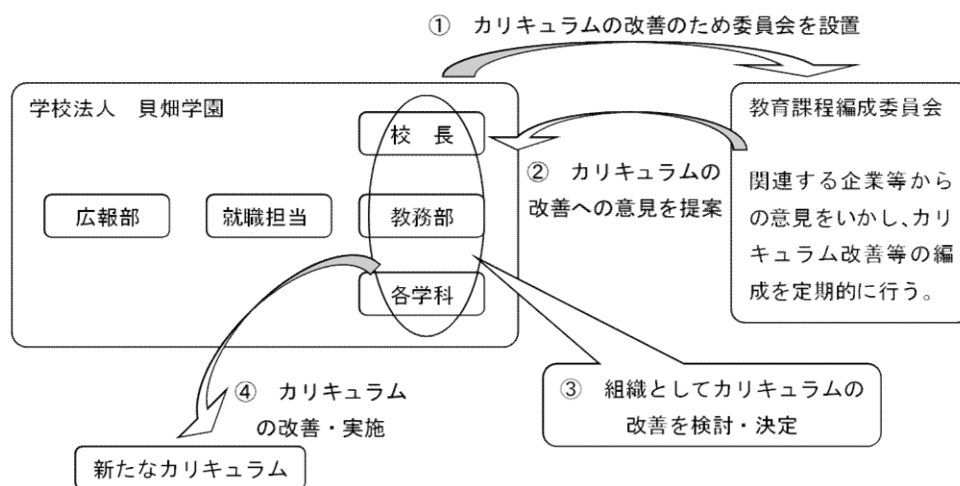
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- アパレル業界の現場に必要な人材を育てるための取り組みを以下のように行っている。
- ・企業連携カリキュラムを展開し、現場に直結する実践型の授業により即戦力を養う。
 - ・地元企業での見学や実習、インターンシップなどで、様々な現場を経験できる環境により実践力を養う。
 - ・企業連携カリキュラムを展開するため、業界の各分野でのスペシャリストが非常勤講師として授業を担当している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、企業等の要請を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するために、学校法人貝畑学園において、編成委員会を教務部と別組織として編成し、この中にファッション学科編成委員会を置く。
 まず、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の情報を外部委員より頂き、この意見、要望を取り入れ教育課程の骨組み、および科目内容の詳細を各学科、教務部、校長を中心に、また、就職担当、広報部の意見も参考に検討し、改善、変更、追加科目等を詰め、作成した科目内容について、再度、検討協議し、次年度の教育課程に反映していく。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
川東 正武	岡山県アパレル工業組合 専務理事	令和4年5月25日～令和6年5月31日(2年1カ月)	①
川尻 のりみ	株式会社カイトックホールディングス 人事部 アシスタントゼネラルマネージャー	令和5年6月1日～令和7年5月31日(2年)	③
角 一秀	内部委員 企画部部长	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
岡本 典子	内部委員 教務部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
多田 晋平	内部委員 教務部	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
中村 仁美	内部委員 教務部	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月14日 15:00～16:30

第2回 令和5年3月24日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 産学連携授業を通して、学生商品開発実習の充実を図ってきたことで学生理解が高まる効果が出ているため、この取り組みを継続させていく必要があるとの意見を頂いた。これを受け、学生が産学連携授業に取り組める回数を増やし内容のレベルを上げていける環境を整えた。今後も委員の方からの意見を活かし、次年度のカリキュラムを再構築しようと進めている状況である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 ファッション業界で活躍されているプロから指導を受け、業界の今を学ぶ。また、専門知識や技術の基礎および応用等を、座学、実習を通して身につけることにより、実践的な高いスキルを持った人材を育成することを目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学科の担当教員と企業の講師により授業内容等の事前打ち合わせを行い、実際に実習を行い指導を行う。日々の指導においては講師間で連携を取りながら授業運営を行う。終了時には企業の講師による成績評価をもとに認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ビジュアルアップワーク	就職、地域のイベント、トレンド、卒業展などのテーマに合わせた事前準備をし、ヘアメイクやウォーキングレッスンをを行う。	オフィスREO/SHENON
ファッションプロデュース	マーケットを意識した商品開発を行い、企画から製造、販売までの商品開発に必要な作業を学習する。	iori products
ファッションマーケティング	マーケティング分析の方法やプレゼン資料の作成方法を学習する	株式会社カイトックホールディングス 株式会社SUNNYDAYWORK
アパレルマーチャндаイジング	企業デザインやオリジナルブランドの立ち上げを基に、市場調査、企画、プレゼンまでを業務の流れにしたがって行う。	有限会社mi PLANNING
OEM演習	業務委託を受けた商品製造の流れを学び、実際に商品の製造を行う。	株式会社総社カイトックファクトリー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 本校、教育研修規定 第4条 教育計画は、学校の教育目的・基本方針に基づき、経営計画に則した視野から次の計画を立てるものとする。
 (1)長期教育計画 教育基本方針に基づいて長期的な教育計画を立てる。
 (2)年次教育計画 長期教育計画と連動して、年度ごとに年次教育計画を立てる。
 に基づき、校長、教務部長及び学科担当が計画し、当学科では、美容業界等の団体が主催する研修に参加し、業界の動向等の知識を習得し、学生への指導へと生かしていく。また、授業の進め方やコミュニケーション能力を高める研修を実施し、すべての教員が学生指導を行っていく上で必要な知識、スキルを習得する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	2022-23AW/トレンドセミナー	株式会社 INFAS/パブ 連携企業等: リケーションズ WWDJAPAN
期間:	令和4年4月19日(火)13:30~16:30	対象: 中村仁美
内容	2022-23秋冬のコレクション情報から国内ファッションマーケットの展望やリアルトレンドの実態までを学ぶプログラム	
研修名:	2023-24SS/トレンドセミナー	株式会社 INFAS/パブ 連携企業等: リケーションズ WWDJAPAN
期間:	令和4年11月15日(火)13:30~16:30	対象: 中村仁美
内容	2023春夏のコレクション情報から国内ファッションマーケットの展望やリアルトレンドの実態までを学ぶプログラム	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	精神障害・発達障害を持つ学生への支援について	連携企業等:	公認心理士 福田正人
期間:	令和4年12月5日(月)16:00~17:00 (オンライン)	対象:	岡本典子、多田晋平、中村仁美
内容	・障害を持つ学生に対して、指導上の注意、気を付ける事他、教員の体験をもとに質疑応答		
研修名:	ペップトークを活かすための自己分析	連携企業等:	日本ペップトーク普及協会 松永 佳世子
期間:	令和5年3月29日(水) 9:30~12:30	対象:	岡本典子、多田晋平、中村仁美
内容	コミュニケーションカード活用研修 ・自分らしさを発揮する・今の自分を13枚で表してみる・自分を表す4色・自己理解を深めよう		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	2023-24AW/トレンドセミナー	連携企業等:	株式会社 INFASパブリケーションズ WWDJAPAN
期間:	令和5年4月18日(火)13:30~16:15	対象:	中村仁美
内容	2023-24秋冬のコレクション情報から国内ファッションマーケットの展望やリアルトレンドの実態までを学ぶプログラム		
研修名:	2024SS/トレンドセミナー	連携企業等:	株式会社 INFASパブリケーションズ WWDJAPAN
期間:	令和5年11月予定	対象:	中村仁美
内容	2024春夏のコレクション情報から国内ファッションマーケットの展望やリアルトレンドの実態までを学ぶプログラム		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリア形成・学び直しについて	連携企業等:	キャリアコンサルティング技能士
期間:	①令和5年9月22日(金)②令和5年9月26日(火)13:30~15:30	対象:	岡本典子、多田晋平、中村仁美
内容	・自己理解ワーク・自身のキャリアと向き合う ・今までの経験を振り返り、想いや考えを書き出すことで、自己理解(価値観や能力、強み 弱み、やりがい等)が深まり、自分の能力開発や成長に向けた主体性、学び、学び直しを促す		
研修名:	怒りの感情と上手に付き合うためのテクニック	連携企業等:	日本ペップトーク普及協会 松永 佳世子
期間:	令和6年3月予定	対象:	岡本典子、多田晋平、中村仁美
内容	「心理トレーニング」アンガーマネジメント ・怒りを感じたときに反射的に対応しないテクニックや怒りを感じにくくなる人間関係に必須な自分の感情に向き合うトレーニング		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

年度ごとに行っている学内自己評価委員で作成している自己評価を基に、企業等の学校関係者委員と情報を共有し、点検・評価を行い、不備な事項についての改善、疑問点の解消を行うことで、自己評価の客観性・透明性を高めていく。
また、関連企業・病院、教育関係者や卒業生といった学校に関係する人たちに、学校を理解してもらう情報を発信し、学校だけでなく、互いに協力しながら学生のことを考え、それぞれの立場・視点に立って意見を出し合うことで、よりよい学校づくりを行っていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守

(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校と学校関係者間で情報を共有し、不備な点等の改善、疑問点の解消を行った結果を、情報公開することにより、関連企業・病院、教育関係者や卒業生といった学校に関係する人たちに学校を理解してもらい、学校と互いに協力しながら学生のことを考え、それぞれの立場・視点に立って意見を出し合うことで、よりよい学校づくりを行っていく。

学生指導においては、指導記録をきちんと残し、担当教員だけでなく、全体での情報共有を行う。職業体験(インターンシップ)については、各学科で目的の再確認を行い、時期・日数等について検討を行う。ボランティア清掃活動等は、学校全体、各学科で今以上の参加を促す、また、参加機会を与えるなど後押しの出来る方法を検討していく。

評価の高い項目については、学校の強みとして把握し広報活動等で有効に利用していく。

<学校関係者評価委員からの意見①>

他の学校で外部講師をした際、学生への授業アンケートがあり、結果のフィードバックがあった。学生の意見を聴けるよい方法なので是非活用してほしい。

→現在は紙ベースでアンケートを実施し、教務部長と各学科担当が内容を把握している。今後はWebアンケートの導入を検討し、ペーパーレス化を図るとともに、集計結果を科目担当教員にフィードバックできるような仕組みを整備していく。

<学校関係者評価委員からの意見②>

高等学校では、近年増加している精神的な疾患を持つ学生の対応が課題となっているが、専門学校でも対応策を整備したほうが良いのではないか。

→本校においても精神的に問題を抱えている学生の比率が増えているため、担任とキャリアセンタースタッフが連携し、学生フォローを強化する。また学内に相談窓口を開設し、メールでの相談が出来るようにするほか、臨床心理士の方とも連携して希望学生が面談を行えるよう合わせて環境を整備していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
穂山 晃治	株式会社アコービューティック 代表取締役社長	令和4年5月22日～令和6年5月31日(2年1ヵ月)	企業等委員
磯島 貴史	株式会社ティアラ 代表取締役社長	令和4年5月19日～令和6年5月31日(2年1ヵ月)	企業等委員
岡 謙治	株式会社Pomme 代表取締役	令和4年5月30日～令和6年5月31日(2年1ヵ月)	企業等委員
河合 洋二郎	河合内科西口クリニック 院長	令和4年6月2日～令和6年5月31日(2年)	企業等委員
杉井 正治	山陽事務機株式会社 営業部次長	令和4年6月1日～令和6年5月31日(2年)	卒業生
林 秀臣	創志学園高等学校 参与兼進学本部長	令和5年6月1日～令和7年5月31日(2年)	企業等委員
濱本 隆史	株式会社アミーゴ 西ブロック長	令和5年6月1日～令和7年5月31日(2年)	企業等委員
森本 浩史	株式会社カイトックホールディングス 総務部 ゼネラルマネージャー	令和5年6月1日～令和7年5月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.obcnet.ac.jp/gakuen/about/index.html#p05>

公表時期: 令和5年10月16日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校自己評価の実施、学校関係者(関連企業団体、教育関係者、卒業生)による評価を実施、公表することにより、教育環境の整備、教育内容の充実、教育水準の向上にさらに努めていく。

情報提供は、ホームページ、パンフレット等で行うが、基本的にホームページから閲覧でき、内容の更新をきちんと行うことで、関連企業団体、卒業生、保護者等に学校のことを理解してもらう。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園概要、沿革、基本方針
(2)各学科等の教育	学科紹介
(3)教職員	教員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実践教育
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動
(6)学生の生活支援	学生支援

(7) 学生納付金・修学支援	学生募集
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.obcnet.ac.jp/gakuen/about/index.html#p05>

公表時期: 令和5年3月20日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ファッション学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジュアルアップワーク	第一印象に大切な「身体と動作：ウォーキングレッスン」「ヘアメイク」を学ぶ。	1通 2通	120	4			○	○			○	○
2	○			イベントディレクション	卒業展等のイベントを企画、運営、実施する。	2通	120	4			○	○			○	○
3	○			ブランドプロデュース（企画）	マーケットを意識した商品開発を行い、企画や販売までの商品開発に必要な作業を学習する。	1通 2通	180	6			○	○			○	○
4	○			ブランドプロデュース（製作）	マーケットを意識した商品開発を行い、製造、の商品開発に必要な作業を学習する。	2通	60	2			○	○			○	○
5	○			ファッションゼミ	職種別の検定対策や企業と連携した課題に取り組む	2通	60	2			○	○			○	○
6	○			ファッション色彩	アパレルデザインの構成要素の一つ「カラー」を学習。色彩活用パーソナルカラー検定の3級または2級を取得する。	1通	45	1.5	○			○			○	
7	○			ファッションイラストレーション	コンテストイラスト画・素材、ハンガーイラストを手描きで学習を行う。	1通	75	2.5			○					○
8	○			パターンメーキングⅠ	平面製図によるブラウスシャツ、スカート、パンツ、ジャケットのフラットパターンを習得する。	1通	90	3			○				○	○
9	○			アパレルソーイング	工業用パターンを使用して、シャツブラウス、スカート、パンツ、カジュアルジャケット、スーツのアパレル縫製を行う。	1通	90	3			○				○	○
10	○			作品製作実習	アパレル商品のパターン作成・縫製を行い、基本的な製造知識を習得する。	1通 2通	150	5			○				○	○
11	○			E C・プロモーション戦略Ⅰ	ネットビジネス基礎知識及び、セールスプロモーションの手法を学習する。	1通	30	1			○					○
12	○			ファッションCG	イラストレーターを使用し、ファッションイラストやハンガーイラスト等のデザインを作製する。	1前	30	1			○				○	○

13	○		フォトテクニク I	フォトショップを使用し、ファッションフォトの作成やECで使用する商品撮影、写真加工を行う	1通	60	2		○		○					○		
14	○		テキスタイル論	素材の基礎知識及び、素材特性を学ぶ。アパレル商品デザインに合わせた素材の選び方	1通	30	1	○			○						○	
15	○		服飾造形論	ファッション業界の基礎を理論で学習する。産業の構成、傾向・消費・マーケティング・MD・流通・計数など。	1通	30	1	○			○						○	
16	○		ファッションビジネス	ファッション業界の基礎知識をFB知識検定3級に沿って学習する。	1通	45	1.5	○			○						○	
17	○		作品表現（グラフィックデザイン）	イラストレーターやフォトショップを使用し、DMやPOP、フリーペーパーの製作基礎を学習する	1通 2通	120	4				○	○					○	
18	○		ビジネスマナー I	社会人としてコミュニケーションに必要な知識や技能を学ぶ。サービス接客検定、ビジネス電話検定取得。	1通	60	2	○			○							○
19		○	ショップスタイリスト	ショップスタッフに必要な基礎知識を学習する	1後	45	1.5	○			○						○	
20		○	デザイナー	企業デザイナーに必要な基礎知識を学習する	1後	45	1.5	○			○						○	
21		○	テクニカル	サンプル製造に必要な基礎知識を学習する	1後	45	1.5	○			○						○	
22		○	ファッションマーケティング	マーケティング基礎やプレゼン資料の作成方法などを学習する。	2通	60	2		○		○						○	
23		○	接客コミュニケーション	接客に必要な知識を、接客ロールプレイングに活かす実技を学ぶ。	2通	60	2		○		○						○	
24		○	販売実習/店舗企画	店舗運営に必要な知識や技術を実践的に学習する。	2通	60	2				○	○					○	
25		○	フォトテクニク II	フォトショップを使用し、ファッションフォトの作成やECで使用する商品撮影、写真加工を行う	2通	60	2				○	○	○				○	
26		○	ファッション販売	ファッション業界の基礎を理論で学習する。産業の構成、傾向・消費・マーケティング・MD・流通・計数など。FB知識検定2級を取得する。	2通	30	1	○			○						○	
27		○	EC・プロモーション戦略 II	実際にECサイトを運営し、セールスプロモーションの手法を実践的に学習する。	2通	60	2				○	○					○	

28	○	サービス接遇 マナー	店頭業務に必要なショップスタッフとしてのコミュニケーション知識や技能を学ぶ。	2 通	30	1	○			○		○		
29	○	ファッション クリエイション	トレンドの分析や、デザイン画を作成する為のアイデア出し、コンテスト作品のデザインを行う。	2 通	90	3	○			○				○
30	○	アパレル職務 実践演習	企画・デザイン業務の流れを学習し、マーケティングを通して、商品開発に必要な調査、分析、プレゼン資料の製作及び発表方法を学ぶ。	2 通	60	2		○		○	○		○	○
31	○	アパレル企画 演習	商品の企画生産に関わるアイデア出しの方法を学習する。	2 通	90	3		○		○	○			○
32	○	パターンメー キングⅡ	平面製図によるブラウスシャツ、スカート、パンツ、ジャケットのフラットパターンを習得する。	2 通	90	3		○		○				○
33	○	造形デザイン	ハンガーイラストの学習から、製品のディテールデザインの方法を学ぶ。	2 通	60	2		○		○				○
34	○	量産知識	製品の検品、採寸方法に合わせて、縫製仕様書の作成を実践的に学習する。	2 通	60	2			○	○				○
35	○	縫製技術	オリジナルのデザインを企画・設計・縫製・コーディネートまで行い卒業展での発表を行う。	2 通	150	5			○	○			○	○
合計					35 科目		2490 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 出席時数が出席すべき総時間数の80%以上であること、必要数の検定を取得すること、必要単位を取得すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目は必須、選択必修科目は専攻により選択履修		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。